

トピックス 4

建設産業若手技術者研修会
「人材確保・育成のための合同合宿」の実施について

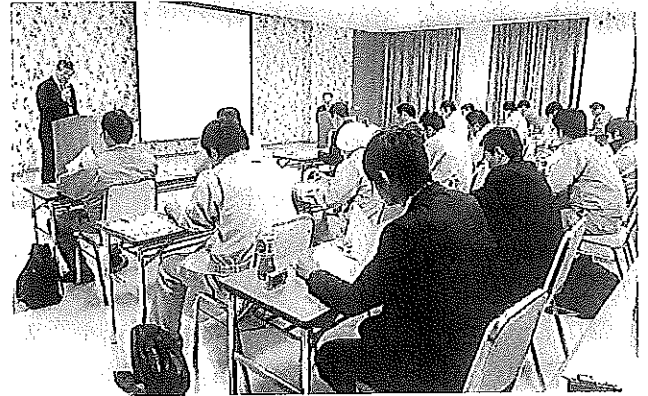
石川県建設業協会と石川県建設産業連合会の主催により、建設産業若手技術者研修会「人材確保・育成のための合同合宿」を実施しました。

開催の目的は、建設産業を取り巻く経済社会環境がまだまだ厳しい状況にある中、次代を担う若手の技術者たちのスキルアップや技術者同士の交流、情報交換を通し、業界の活力を高めることを目指しており、11月13日から1泊2日の日程で行いました。

会員企業の15社から40代までの技術者、技能者ら21名が参加し、1日目は志賀町の「能登・志賀の郷温泉いこいの村能登半島」で講演研修、2日目は工事現場で研修が行われた。

1日目の講演研修は、辻 啓一専務理事のあいさつの後、本郷 忠コマツ粟津工場生産技術部コンポーネント生産技術課長が「コマツのモノづくりと人づくり」と題して講演。この中で、コマツのブランドマネジメントとダントツ経営の理念が紹介され、その中で人材育成をキーワードに据えていることが紹介された。また、人材育成の方針として、自ら学習し自らプロフェッショナルとなる社員が育つよう、会社はそのサポート役に徹することや、熟練の技能者をマイスター（教育者）に認定し若手への技能伝承を図っていることが紹介された。

続いて、小島久枝ホテル日航金沢チーフコンシェルジュが「接遇マナーの基本とおもてなしの心を身に付けよう」と題し講演。まずは受講生4名が2人1組となった会話形式のロールプレイを即席で行い、振り返



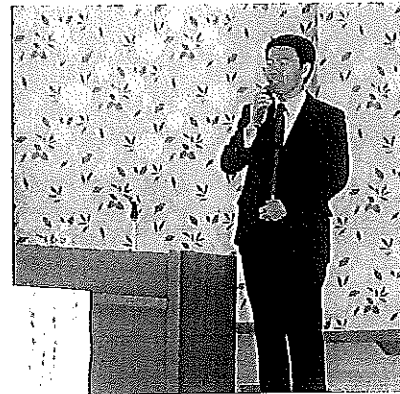
講演研修風景



意見交換会



あいさつの県協会 辻 啓一専務理事

講演の本郷 忠氏
(コマツコンポーネント生産技術課長)講演の小島久枝氏
(ホテル日航金沢チーフコンシェルジュ)

りの中で表情や態度、言葉遣いなど接遇の基本的なマナー・留意点を怪妙なトークを交えて解説しました。

また、接客の原点は「コミュニケーションのスキルよりも相手の心に届く思い」であるとし、建設工事の現場でも人の目を常に意識し、ホスピタリティの精神を持って日々取り組むことの大切さを話されました。

最後に、辻 啓一専務理事が「いしかわの地域を支える建設産業ビジョンと担い手対策」と題して講演。8月にとりまとめられたビジョンの背景や要点について説明を行うとともに、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律（いわゆる改正品確法）」において、担い手の中長期的な育成・確保に向けた国の取組みについて説明を行いました。

講演研修の終了後、参加者同士の意見交換会も開催され、夜遅くまで活発な意見交換が行われた。

2日目は志賀オフサイトセンター、一般国道249号藤橋バイパスの工事現場を見学しました。最初に訪れた志賀オフサイトセンターでは、県営繕課の金田専門員からオフサイトセンターは現在の所在地が志賀原発から5km以内にあるためヘリポートを有する志賀町消防署に隣接する地に移転することになった経緯の説明があり、志賀原発で事故が発生した場合に国、県、市町の防災担当者が詰める拠点となるため、放射線防護や免震構造等で設計がなされていると説明を受けた。現場では地下の免震装置や放射線防護のため外壁には小さな開口部しか設けていないことや、天井も地震の際に落下しないように下地を補強している説明を受けた。次に訪れた国道249号藤橋バイパスの現場、中能登総合土木事務所の浅村次長から能越自動車から七尾市街を通過せずに田鶴浜方面へ抜けるためのバイパスを設けており、来年春の能越自動車道の開通と併せて整備を進めていると説明を受けた。

現在使用されている七尾道路の付け替えのため、綿密に工程をたて、交差点改良を行っている苦労話の説明も受けた。

研修終了後には研修の満足度などを聞き取るアンケートを実施しました。参加者からは、「このような取り組みはとても有意義で勉強になる。継続的に開催してほしい。」「同年代の技術者と意見交換ができ、客観的に仕事を見つめることができ、また同じ悩みを共有することができた。」「業界を取り巻く環境の変化を知ることができた。」「若い人の未来を考えてくれている人がいるし、建設業の未来も明るいということもわかった。」といった好意的な意見が聞かれた。一方で、「現状は残業も多く給料も少ない。このままだと自分の子どもに建設業を薦めようとは思わない。これからよくなって子どもに薦められる業界に変わってほしい。」といった切実な声も聞かれました。

石川県建設業協会ならびに石川県建設産業連合会では、今回の取組みを通じて技術者・技能者、特に業界内のつながりが未発達な若い人たちの組織を越えた交流が担い手の確保・育成に必要不可欠であることを認識し、今回の取組みが幅広い交流の機会をつくっていくためのキックオフイベントと位置付け、今後は担い手の開発に向け真摯に取り組んでいきます。



オフサイトセンターにおける免震装置の見学



国道249号藤橋バイパスの見学